

(別紙) 「第1回加東市消防団のあり方検討委員会」会議の経過

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 議長の選出について

(3) 加東市内の防災体制の現状と消防団の必要性について

発言者	説明内容・発言内容等
議長	事務局から説明をお願いする。
事務局	「加東市消防団のあり方検討委員会設置の目的」及び「加東市内の防災体制の現状と消防団の必要性について」詳細説明。
議長	今日はこの資料の共通認識の土台として考えて欲しい。意見は？
委員	<p>検討委員会立ち上げのきっかけとなったのは私の発案です。私が分団員の頃は、団員確保について支障はなかったが、副団長になってしばらく経過してから団員確保問題、操法、年末警戒が負担という声を聞き始めた。その中で何かアクションを起こす必要があると判断し、幹部会で議論し平成25年1月にアンケートを取った。集計結果は予想どおり新入団員の確保、操法・年末警戒が負担になっていることが数字上で示された。</p> <p>私は、市が掲げる「安全安心を守る」上で消防団活動は住民の皆様に理解され、必要だと自負を持っている。</p> <p>今後は、あり方検討委員会で、今後の進む方向性を考えることを検討したい。</p>
委員	私の地区は世帯数も少なく分団員数も少ない。団活動を維持するのは難しくなっている。
委員	昼間の火事だと出動が困難な分団があることは仕方ないと思う。ただ、旧町の頃は役場の職員の出動もあったが、合併して庁舎が遠くなったこともあり、出動しにくくなったと思う。
委員	私の息子は消防団に属しているが、資料によるところの幽霊団員です。母親として息子に消防団の必要性を認識させ、教育をしていたかなと思うと、あまり干渉していなかった。家族の中で地域に貢献させる教育をさせる必要がある。
議長	団員を勧誘しても断るケースは本人又は親がどういうケースが多いんですか？
委員	「家は有事の際、消防署に消火してもらおうので団には入れさせない」とアンケートに書いたのは私だと思う。親の判断で断ってしまうケースも多い。
議長	消防団の入団の障害になっているのは、加東消防署があるのに、と思っている方がいるのは事実だが、常備消防としてはどう考えていますか？

委員	今日お越しの委員さんは、今日の資料を見るまでは常備消防の現状を誰もご存知ではなかったと思います。消防署は交替勤務体制で、火災だけでなく救急対応も数多くある。仮に救急に1隊出ると署に残る人員が少なくなり、その時に火事が起こると消防団の力は必要不可欠となる。署の職員を増やすことで多少解決できるかもしれないが、現実としては難しいため、消防団の力は大きな力だと考えている。
議長	少子高齢化、住民のサラリーマン化、遠距離の通勤などの暮らし方は時代の流れであり、解決できる問題ではない。常備消防・非常備消防・自主防災組織の三位一体で連携をとることが大事であり、今後も重要になってくる。
議長	地元区長として、どのように消防団をバックアップすれば良いと考えますか。
委員	火事があって団のOBである我々は地元にも消防車両に乗ってはいけないという規約が出来たから乗れない。以前に乗っても良いと言われていた頃は乗って現場へ行っていた事もある。
議長	団OBは地元にも居て出動できるが、規約で縛りがかかっているから出ようと思っても出られない。
委員	今までの消防車両、ポンプは地元で購入又は地元で購入し市がいくらか補助金を出してもらっていたが、現在は全て加東市の費用で購入している。団員は保険に入っているが、一般の人は入っていない。自衛消防団として組織され運転される場合があればその時保険等のことは再検討する必要がある。
議長	この件は、保険金というお金のかかる話でもあるので、今日は一旦保留にします。
議長	次何か意見はありますか。
委員	消防団の必要性は非常に大事である。特に、丹波、広島等での土砂災害時の最前線で活動したのは消防団である。但し、少子高齢化等の中で団員確保は難しい。私は地区の方にボヤを出さない様な心がけを促している。 私の地区では消防団と、自主防災組織が連携しながら消防団OB等による初期消火隊を組織し、ボヤを出さない、また、出しても大きな火災に至るまでに初期消火でとどめることが大事と考えている。
議長	自治会、自主防災組織等で意識改革をし、消防団活動のマイナス部分を補填すること、また、既存の人材を使うことも有効である。
議長	消防団とは無縁であったと思うが、今日の議論を見ていて何か感じたことはありますか。

委員	<p>私は、消防団、消防署と全く無縁のところから来た。元々市外に住んでいたが、今の住まいを探す基準となったのは消防団のない地区を第一希望と考えた。</p> <p>理由は、操法、訓練、団員同士の付き合い等、知らない土地で知らない人の中で出来るか不安があった。今日参加して消防の必要性は認識できた。団員の確保を考えると、私の年齢はまさに消防団員の中核を担う年齢だが、消防団活動の中身・組織が見えなく、しんどいだけという印象を持っている。</p>
議長	<p>若くて今まで関心の無かった方でも、ここに来て関心が出てきたと思ってもらおう事がプラスになった。ただ、PR不足も認識する必要があることが分かった。</p>
委員	<p>三田市では、新聞で20才代から50才代の方が新入団員になりようやく定数を満たしたとの記事があった。人口が増えている三田市であっても同じような悩みを抱えている。加東市独自の方向性を検討すべきだ。</p>
議長	<p>我が町は我々で守る事が大事である。守るべきものはこの町にどんな者があるのか？消防団もその中核であり、広がりがあればいいのだが。</p>
委員	<p>親の理解不足。学校でも防災等の訓練はあるが、消防団としての詳しい教育がされていない。今の子どもは、阪神淡路・東日本大震災などを知る事により、ボランティアには関心が高いが、消防団の活動内容の教育がされていない。現に、鎮火後の現場監視などは消防署ではなく、消防団が行っている事など、消防団に入らないと分からない。火事も地震もいつ起こるかわからない。地道な活動が必要であり、啓蒙活動が必要である。</p>
議長	<p>外的環境として少子高齢化、サラリーマンで外へ出ている等、悪い条件ばかりに見えるが、消防、防災はわが国にとって重要なテーマでもある。知恵でカバーする必要もある。</p>
委員	<p>消防署が近くにあっても救急等が出払った場合は頼りにならない事が分かった。息子が消防団に入っているが、水防活動で夜間であっても帰ってこなかったり、鎮火したのにすぐに帰ってこなかったり等、今日話を聞いて大事な仕事をしてきている事が改めて分かった。私は子供に消防団に入るように勧めた。</p> <p>小・中学校は学校及び地区で教育できるが、高校、大学生は地域から離れることが多い。この年代の者を消防団に入れるためには地域に繋ぎとめておくことが大事。高校生の年代は気持ちの中でボランティアをしたと思っているが、手伝い場所がない。もっと、繋ぎとめることをすれば、大学で市外に出ても、その場所で活躍が期待できる。</p>
委員	<p>新入団が入りやすい環境づくりをこの委員会で意見をいただき、方向性を決めたい。</p>
委員	<p>消防団は地域に密接する団体であり、地域の仕組みを知るための入口でもある。それらを分かってもらい、魅力ある消防団員として活躍して欲しい。私たちはその導き役である。</p>

委員	<p>私達の若い頃は、地域の付き合いは消防団から始まり、地区の先輩から村づきあいなどの他、色々と教えてもらい地域に根ざしていた。私は火事の現場でいろんなことを身をもって覚えた。今は訓練で覚えさせているが、それが行事・形式化となって負担に感じるようになってきている。今は筒先は消防署、消防団はその手伝いと考え分団員が多い。日中人の足りない時の人のカバーを考える必要がある。出動エリアを考え直さないと対応できない事もある。</p>
議長	<p>本日の議事はこれで終了しました。</p>
事務局	<p>今後何をしていくかを考えると、現在の消防団の現状、活動内容などもっとPR、啓蒙啓発をする必要がある事を感じた。その上で市民に理解をしていただいた上で次のステップを考えていく必要がある。</p> <p>次回は、周知、啓蒙啓発を中心に進めていく。</p>

4 閉会